（3） か　　き

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 炭疽病 *Colletotrichum horii*	1.園の排水を図り、密植を避ける。 2.窒素質肥料の過用を避け、枝梢の充実を図る。 3.病斑のある枝はせん定のときに切り取る。 4.強せん定は避け、突発枝は切り取る。 5.本病に対して横野、富有、平核無は弱い。	発芽後 （4月下旬～ 5月中旬）	1 1 29 10･1 10･1	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 フロンサイドSC （混）ゲッター水和剤 （混）ニマイバー水和剤
	〈薬剤使用の特記事項〉 1.ストロビードライフロアブルは西条の新梢伸長期の散布で、葉に薬害を生じる場合があるので注意する。 2.フロンサイドSCの注意事項 ・皮膚にかぶれを生じることがあるので、散布後7日以内の入園はしない。 ・ハウスでは使用しない。 3.キノンドーフロアブル、キノンドー顆粒水和剤、シトラーノフロアブルは着色期以降の散布は避ける。 4.ベルクート水和剤は、西村早生には使用しない。 5.デランフロアブルの注意事項 ・かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにする。 ・施用した作物等との接触をさける。 6.ボルドー液の注意事項 ・使用濃度 （7月上旬～8月下旬） 2.5－12.5式 （9月上旬～下旬） 3－12式 ・作り方は果樹参考2参照。台風通過後には使用しない。 7.オーソサイド水和剤80は、果実の薬害回避のため9月以降の散布は避ける。	5月下旬～ 6月下旬	1 1 3 3 3 11 11 11 29 M1 M1 M1 M1 M1 M1 M3 M3 M3 M3 M4 M7 M9 M11 10･1 10･1 1･M3 M3･3 11･7 M1･M5	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 スコア顆粒水和剤 オンリーワンフロアブル インダーフロアブル アミスター10フロアブル ストロビードライフロアブル フリントフロアブル25 フロンサイドSC オキシンドー水和剤80 キノンドー水和剤40 キノンドー水和剤80 キノンドーフロアブル キノンドー顆粒水和剤 ドキリンフロアブル チオノックフロアブル トレノックスフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 オーソサイド水和剤80 ベルクート水和剤 デランフロアブル ストライド顆粒水和剤 （混）ゲッター水和剤 （混）ニマイバー水和剤 （混）ラビライト水和剤 （混）ブローダ水和剤 （混）ナリアWDG （混）シトラーノフロアブル
		7月上旬～ 8月下旬	1 1 11 11 29 52 M1 M3 10･1 10･1 3･11 11･7	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル25 フロンサイドSC ミギワ20フロアブル ボルドー液 チオノックフロアブル （混）ゲッター水和剤 （混）ニマイバー水和剤 （混）ナティーボフロアブル （混）ナリアWDG
		9月上旬～下旬	1 1 3 11 M1 M3 10･1 3･11	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 スコア顆粒水和剤 ストロビードライフロアブル ボルドー液 チオノックフロアブル （混）ニマイバー水和剤 （混）ナティーボフロアブル

かき

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
2 うどんこ病 *Phyllactinia kakicola*	1.被害枝(黒粒状の子のう殻)をせん定時に除去し、園外に持ち出して処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ストロビードライフロアブルは西条の新梢伸長期の散布で、葉に薬害を生じる場合があるので注意する。 2.キノンドーフロアブル、キノンドー顆粒水和剤は着色期以降の散布は避ける。 3.ベルクート水和剤、ダイパワー水和剤は西村早生に使用しない。	発芽直後 (3月下旬)	ー	石灰硫黄合剤
		5月～9月	1	トップジンM水和剤
			1	ベンレート水和剤
			3	ラリー水和剤
			3	アンビルフロアブル
			3	トリフミン水和剤
			3	ルビゲン水和剤
			3	サプロール乳剤
			3	スコア顆粒水和剤
			3	オンリーワンフロアブル
			3	インダーフロアブル
			3	サルバトーレME
			7	パレード15フロアブル
			7	カナメフロアブル
			11	アミスター10フロアブル
			11	ストロビードライフロアブル
			11	フリントフロアブル25
			11	スクレアフロアブル
			52	ミギワ20フロアブル
			M1	オキシンドー水和剤80
			M1	キノンドー水和剤40
			M1	キノンドー水和剤80
			M1	キノンドーフロアブル
			M1	キノンドー顆粒水和剤
			M1	ドキリンフロアブル
			M2	コロナフロアブル
			M2	イオウフロアブル
			M3	チオノックフロアブル
			M3	トレノックスフロアブル
			M7	ベルクート水和剤
			3･11	(混)ナティーボフロアブル
			7･11	(混)ナリアWDG
			1･M3	(混)ラビライト水和剤
			3･M3	(混)ブローダ水和剤
			M7･M4	(混)ダイパワー水和剤
3 落葉病 (円星) *Mycosphaerella nawae* (角斑) *Cercospora kaki*	1.施肥、土壌管理などに気を配り、樹勢を旺盛にする(有機質肥料の施用、乾燥防止など)。 2.落葉を処分し､中耕をする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.葉裏に薬剤が十分つくように散布する。 2.7月中旬の散布は角斑落葉病を主体とする。 3.フロンサイドSCの注意事項は、炭疽病の項を参照。 4.ボルドー液の注意事項 ・使用濃度：2.5－12.5式 ・使用は6月中旬以降とし、台風通過後には使用しない。作り方は果樹参考2参照。 5.キノンドーフロアブル、キノンドー顆粒水和剤は着色期前までの使用とする。 6.ベルクート水和剤は西村早生に使用しない。 7.デランフロアブルの注意事項は、炭疽病の項を参照。	4月下旬～ 6月下旬 (2回散布) 7月上旬～ 8月下旬 (1回散布)	1	トップジンM水和剤
			1	ベンレート水和剤
			3	スコア顆粒水和剤
			3	オンリーワンフロアブル
			3	インダーフロアブル
			3	サルバトーレME
			7	パレード15フロアブル
			7	カナメフロアブル
			11	アミスター10フロアブル
			11	ストロビードライフロアブル
			11	フリントフロアブル25
			11	スクレアフロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			29	フロンサイドSC
			M1	オキシンドー水和剤80
			M1	キノンドー水和剤40
			M1	キノンドー水和剤80
			M1	キノンドーフロアブル
			M1	キノンドー顆粒水和剤
			M1	ドキリンフロアブル
			M1	ボルドー液
			M3	ジマンダイセン水和剤
			M3	ペンコゼブ水和剤
			M3	チオノックフロアブル
			M3	トレノックスフロアブル
			M4	オーソサイド水和剤80
			M5	パスポート顆粒水和剤

かき

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
		4月下旬～ 6月下旬 （２回散布） 7月上旬～ 8月下旬 （１回散布）	M7 M9 M11 10･1 10･1 1･M3 3･11 7･11 M3･3	ベルクート水和剤 デランフロアブル ストライド顆粒水和剤 （混）ゲッター水和剤 （混）ニマイバー水和剤 （混）ラビライト水和剤 （混）ナティーボフロアブル （混）ナリアＷＤＧ （混）ブローダ水和剤
4 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.落花後果実に付着した花弁はできるだけ除去する。 2.圃地の排水を図る。 3.枝が過繁茂にならないよう、適正な施肥をこころがける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.フロンサイドＳＣの注意事項は、炭疽病の項を参照。 2.ベルクート水和剤は西村早生には使用しない。	5～6月	3 7 7 11 11 29 52 M7 10･1 10･1 3･11 -･19	オンリーワンフロアブル フルーツセイバー カナメフロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 フロンサイドＳＣ ミギワ20フロアブル ベルクート水和剤 （混）ニマイバー水和剤 （混）ゲッター水和剤 （混）ナティーボフロアブル （混）デュアルサイド水和剤
5 切り口及び傷口のゆ合促進		せん定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後	1	トップジンＭペースト
6 カキノヘタムシガ (ヘタムシ)	1.秋期にバンドを巻き、冬期にバンドを除去、処分する(バンド誘殺)。 2.休眠期に粗皮削りをする。 3.被害果は摘果し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.パダンＳＧ水溶剤とエビセクト水和剤及び合成ピレスロイド剤(RACコード：3A)はコナカイガラムシ類の発生の多いところでは使用に注意する(リサージェンス回避)。 2.コテツフロアブルは、薬害のおそれがあるため、着色期の使用は避ける。 3.パダンＳＧ水溶剤、エビセクト水和剤は果実の着色期直前以降の散布は避ける。 4.本虫対象に合成ピレスロイド剤(RACコード：3A)で防除を実施しているところではクワゴマダラヒトリの発生が少ない。 5.本虫対象に防除を実施しているでは、カキノキマダラメイガとヒメコスカシバの発生が少ない。	第１世代 （5月中旬～ 6月下旬） 第２世代 （7月上旬～8月上旬に１～２回散布）	1A 1B 1B 1B 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 5 11A 13 14 14 15 15 15 28 28 28 28 3A･1B 28･4A	オリオン水和剤40 スミチオン水和剤40 トクチオン水和剤 オルトラン水和剤 アディオン水和剤 アディオン乳剤 アグロスリン水和剤 スカウトフロアブル ロディー水和剤 テルスターフロアブル マブリック水和剤20 アークリン水和剤 アーデント水和剤 バイスロイドＥＷ モスピラン顆粒水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 ディアナＷＤＧ バシレックス水和剤 コテツフロアブル パダンＳＧ水溶剤 エビセクト水和剤 デミリン水和剤 ノーモルト乳剤 アタブロンＳＣ フェニックス顆粒水和剤 フェニックスフロアブル サムコルフロアブル10 ヨーバルフロアブル （混）パーマチオン水和剤 （混）キックオフ顆粒水和剤

かき

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
7 フジコナカイガラムシ	1.秋期にバンドを巻き、冬期にバンドを除去、処分する(バンド誘殺)。 2.休眠期に粗皮削りをする。 3.寄生密度の高い枝を切り落とす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発芽前～発芽期のアルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤は主幹から主枝の粗皮を環状に剥いだ部分に塗布する。 2.アプロード水和剤は幼果期以降に散布すると果皮に薬害を生じるおそれがあるので、開花期までに使用する。	休眠期 (発芽前)	UN	石灰硫黄合剤
			UNM	スピンドロン乳剤
			UNM	ハーベストオイル
			UNM	アタックオイル
			UNM	トモノールS
		発芽前～発芽期	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
		越冬世代 (4月中旬) 第1世代以降 (5月上旬～ 6月中旬) (6月下旬～ 9月下旬)	1A	オリオン水和剤40
			1B	スミチオン水和剤40
			1B	トクチオン水和剤
			1B	オルトラン水和剤
			1B	マラソン乳剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			16	アプローチ水和剤
			28・4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
8 カキホソガ	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.パダンSG水溶剤は果実の着色期直前以降の散布は避ける。 2.パダンSG水溶剤はコナカイガラムシ類の発生の多いところでは、リサージェンスに注意する。	7月下旬～ 8月上旬	14	パダンSG水溶剤
9 ツノロウムシ	1.寄生密度の高い枝を切り落とす。 2.ゲッケイジュ、ツバキ、サザンカ、モッコク他多くの樹種に寄生するので、圃場周囲の寄生状況に注意する。			
10 カメムシ類	1.防虫ネット(4㎜目合以下)で園全体を被覆する。 2.黄色蛍光灯を設置すると、チャバネアオカメムシの被害が軽減される。ただし、クサギカメムシやツヤアオカメムシには効果がない。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.合成ピレスロイド剤(RACコード：3A)はコナカイガラムシ類の発生の多いところでは、リサージェンス回避のため、連用を避ける。	6月下旬 ～10月下旬	1B	スミチオン水和剤40
			2B	キラップフロアブル
			3A	アディオン乳剤
			3A	アディオンフロアブル
			3A	アーデント水和剤
			3A	アーデントフロアブル
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	スカウトフロアブル
			3A	ロディー水和剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	テルスターフロアブル
			3A	マブリック水和剤20
			3A	アークリン水和剤
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			3A・1B	(混)パーマチオン水和剤
			28・4A	(混)キックオフ顆粒水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

かき

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
11 カキノキマダラメイガ (フタモンマダラメイガ)	1.休眠期に粗皮削りをする。 2.幼虫を刺殺する。 3.伊豆や富有の幼木に被害が多い。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ガッドサイドＳは主幹部、主枝及び亜主枝の分岐部に散布する。樹幹の分枝部に被害が多いので分枝部を主点に処理する。 2.９月上中旬は枝幹部を重点に薬剤を散布する。 3.パダンＳＧ水溶剤は果実の着色期直前以降の散布は避ける。 4.パダンＳＧ水溶剤はコナカイガラムシ類の発生の多いところでは、リサージェンス回避のため、連用を避ける。	粗皮削り後 (産卵期～ 幼虫喰入期)	1B	ガットサイドＳ
		４月下旬 ～８月下旬 (２～３回散布) ９月上中旬 (１回散布)	14	パダンＳＧ水溶剤
12 ヒメコスカシバ	1.休眠期に粗皮削りをする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ガッドサイドＳは主幹部、主枝及び亜主枝の分岐部に散布または塗布する。粗皮や虫糞を除いてから塗布または散布すると効果的である。	粗皮削り後 (産卵期～ 幼虫喰入期)	1B	ガットサイドＳ
		発生初期	28	フェニックスフロアブル
13 イラガ類	1.休眠期に粗皮削りをする。 2.冬期に繭を除去する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.合成ピレスロイド剤(RACコード：3A)、パダンはコナカイガラムシ類の発生の多いところでは、リサージェンス回避のため、連用を避ける。 2.コテツフロアブルは薬害のおそれがあるため、着色期の使用は避ける。 3.パダンＳＧ水溶剤は果実の着色期直前以降の散布は避ける。 4.サムコルフロアブル10はヒロヘリアオイラガの登録である。 5.本虫対象にノーモルト乳剤、コテツフロアブルで防除を実施しているところでは、ハスモンヨトウの発生が少ない。	発生初期	1A 1B 3A 11A 13 14 15 28 28 28 3A･1B	オリオン水和剤４０ スミチオン水和剤４０ マブリック水和剤２０ バシレックス水和剤 コテツフロアブル パダンＳＧ水溶剤 ノーモルト乳剤 サムコルフロアブル１０ フェニックス顆粒水和剤 フェニックスフロアブル (混)パーマチオン水和剤
14 チャノキイロアザミウマ	1.休眠期に粗皮削りを行う。 2.光反射シートを圃地の80%に敷きつめる。 3.茶園付近で発生が多い。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.合成ピレスロイド剤(RACコード：3A)、パダンＳＧ水溶剤はコナカイガラムシ類の発生の多いところでは、リサージェンス回避のため、連用を避ける。 2.パダンＳＧ水溶剤は果実の着色期直前以降の散布は避ける。 3.コテツフロアブルは薬害のおそれがあるため、着色期の使用は避ける。	落弁期～幼果期	1B 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 5 9B 13 14 28 3A･1B 28･4A	オルトラン水和剤 アディオン乳剤 アディオンフロアブル アグロスリン水和剤 スカウトフロアブル ロディー水和剤 テルスター水和剤 テルスターフロアブル マブリック水和剤２０ アークリン水和剤 バイスロイドＥＷ アドマイヤー水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 ディアナＷＤＧ コルト顆粒水和剤 コテツフロアブル パダンＳＧ水溶剤 ヨーバルフロアブル (混)パーマチオン水和剤 (混)キックオフ顆粒水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

かき

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
15 カキクダアザミウマ	1.休眠期に粗皮削りをする。 2.早期に巻葉を除去する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.巻葉ができる前に薬剤を散布する。 2.巻葉内、がく周辺に十分かかるように散布する。 3.園の周辺のアカマツにも寄生している。 4.風にのって飛来するので、風の後は発生に注意する。 5.ジェイエース水溶剤はチャノキイロアザミウマにも登録がある。 6.コテツは薬害のおそれがあるため、着色期の使用は避ける。 7.合成ピレスロイド剤(RACコード：3A)はコナカイガラムシ類の発生の多いところでは、リサージェンス回避のため、連用を避ける。	展葉期～幼果期 (4月中旬 ～7月上旬)	1A 1B 1B 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 5 13 28 3A･1B 28･4A	オリオン水和剤40 オルトラン水和剤 ジェイエース水溶剤 アディオン乳剤 アディオンフロアブル アグロスリン水和剤 スカウトフロアブル ロディー水和剤 テルスター水和剤 アークリン水和剤 バイスロイドEW アドマイヤー水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 ディアナWDG コテツフロアブル ヨーバルフロアブル (混)パーマチオン水和剤 (混)キックオフ顆粒水和剤
16 カキノヒメヨコバイ		4～11月	4A	ダントツ水溶剤
17 ハダニ類	1.下草、周辺雑草を処分する。 2.株元にバンドを巻き、粘着剤で捕獲する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ニッソラン水和剤は遅効性で成虫に効果がないので注意する。 2.コテツフロアブルは薬害のおそれがあるため、着色期の使用は避ける。 3.コテツフロアブルはカンザワハダニとナミハダニに登録がある。	発生初期	10A 13 21A 21A 25A 25B	ニッソラン水和剤 コテツフロアブル ダニトロンフロアブル ピラニカ水和剤 ダニサラバフロアブル ダニコングフロアブル
18 クワゴマダラヒトリ	1.8月下旬に園周辺のクワ、アカメガシワ、カラスノサンショウなどの産卵植物を伐採する。 2.10月上旬に産卵植物上の巣網を採集し、処分する。	発生初期	1A 11A 11A 11A	オリオン水和剤40 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF ファイブスター顆粒水和剤
19 ケムシ類		発生初期	28 28･4A	フェニックスフロアブル (混)キックオフ顆粒水和剤
20 ミノガ類 (ミノムシ類)	1.枝にぶら下がっているミノを採集しつぶす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.マブリック水和剤20・EWはコナカイガラムシ類の発生の多いところでは、使用に注意する(リサージェンス回避)。	発生初期	3A 3A	マブリック水和剤20 マブリックEW
21 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	発生初期	28 28	サムコルフロアブル10 フェニックスフロアブル
22 ハマキムシ類	1.被害葉は見つけ次第除去する。	発生初期	5 28	ディアナWDG ヨーバルフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する